

# 日本体育大学

スポーツ経営管理学  
(スポーツマネジメント) ゼミ

## 杉村チーム

「Watching Together～観るスポーツが世田谷をつなぐ～」



### 参加メンバー (敬称略)

チームリーダー：杉村 貴弘 (3年)

須田 充弘 (4年)

木槻 研爾 (3年)

青木 沙織 (3年)

大矢 玲奈 (3年)

景山 璃奈 (3年)

金附 明花 (3年)

青木 恭平 (3年)

亀谷 玲代 (3年)

小室 瑞紀 (3年)

鈴木 聖子 (3年)

指導教員：佐野 昌行 (体育学部社会体育学科 助教)

# Watching Together～観るスポーツが世田谷をつなぐ～

日本体育大学 スポーツ経営管理学(スポーツマネジメント)ゼミ

スポーツには、少子高齢化や地域コミュニティの衰退、都市が抱える課題を解決するチカラがある。しかしながら、現在の世田谷区民の週1回スポーツ実施率は50%を割り込んでおり、区民からはさらなるスポーツ環境の整備が求められている。とはいえ、すでに世田谷区には各種公共スポーツ施設、学校開放制度、施設の予約制度、指導者の養成・紹介制度などが整っており、これ以上の充実が容易ではない。

そこで、本提案ではさまざまなスポーツの楽しみ方のうち「観るスポーツ」に注目し、観るスポーツの推進による地域課題の解決を目指す。具体的には地域・行政・大学が連携して区内の大学を拠点としたパブリックビューイング（大型の映像装置を用いたスポーツ観戦イベント）を開催し、地域住民がともにスポーツ観戦を楽しむことで、区内に“つながり”を生み出し、地域の活性化につなげようとするものである。

## 世田谷区の現状と課題

- ・少子高齢化
- ・地域コミュニティの衰退
- ・スポーツ実施率の低さ
- ・1人でのスポーツ実施
- ・スポーツを楽しむ場所の不足

## スポーツのチカラ

する・観る・支えるのうち、「観るスポーツ」によって世田谷区の課題を解決する

## 目指すまちの姿

- ・スポーツを身近に感じられるまち
- ・世代を超えたつながりがあるまち
- ・団結して災害を乗り越えられるまち
- ・会話がはずむまち
- ・生きがいを持ち、楽しく元気に暮らせるまち

## 観るスポーツのメリット

- ・年齢や体力にかかわらずだれでも楽しめる
- ・指導者がいなくても楽しめる
- ・事故やケガの心配がいらぬ
- ・大勢の人が一緒に楽しめる
- ・会話をしながら楽しめる
- ・特別な場所が必要ない
- ・用具代がかからない
- ・着替える必要がない
- ・気軽に行ける

## 地域

## 観るスポーツはまちをつなげる

- ・スポーツに親しむ機会を提供し人とスポーツをつなげる
- ・喜怒哀楽の共有により観る者の心と心をつなげる
- ・地元チームの話題が地域をひとつにつなげる
- ・子ども同士、高齢者同士をつなげる
- ・性別や世代を超えて人と人をつなげる

## パブリックビューイング

## パブリックビューイングのメリット

身近な場所+スタジアムの臨場感+人と人とのつながり

## 行政

- ・区民のQOLの向上
- ・豊かなスポーツライフの提供
- ・区報、ホームページ等による広報サポート

## 大学

- ・地域コミュニティの中核的存在
- ・社会貢献に積極的
- ・テレビなどの機器が充実
- ・人的資源が豊富

## 地域と行政と大学の連携を促進する！

# Watching Together

～観るスポーツが世田谷をつなぐ～



日本体育大学  
スポーツ経営管理学  
(スポーツマネジメント)ゼミ

4年 須田 充弘  
3年 木槻 研爾 杉村 貴弘  
青木 沙織 大矢 玲奈  
景山 璃奈 金附 明花

# 世田谷区の現状と課題

## 少子高齢化

全国的な少子高齢化の進行に伴い、世田谷区の人口構成においても高齢者(65歳以上)人口の割合が増加し、年少者(14歳以下)人口の割合が減少し続けている。平成5年には高齢者の割合が年少者を上回り、この傾向は今後も続くと思われている。

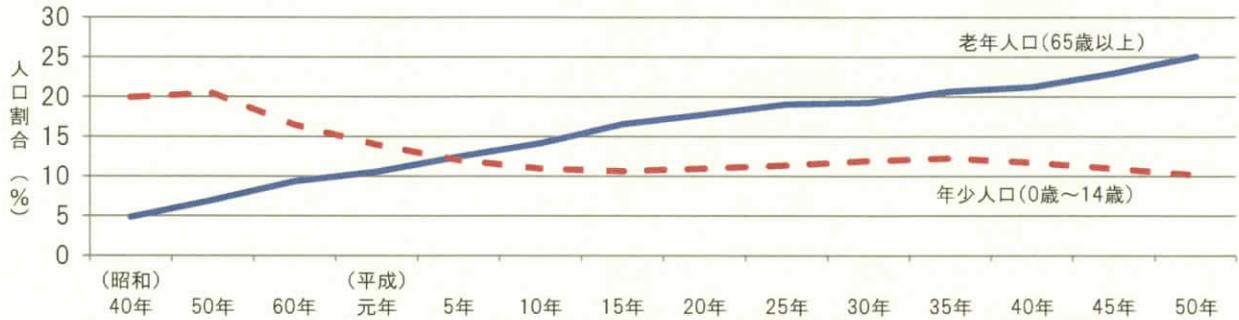


図1 世田谷区の年齢別人口割合の推移<sup>1)</sup> ※平成25年以降は推計/見込み

高齢化が進むにつれて一人暮らしのお年寄りが増加すると、人との交流の機会が減り、社会的孤立が生まれてしまう。



少子化の進行に加え、塾通いが増加し、携帯電話やオンラインゲームが普及すると、子どもたちが顔を合わせてコミュニケーションをとる機会が減少してしまう。



## 地域コミュニティの衰退

都内最大の88万人を抱える世田谷区の人口は、現在増加が進んでおり、今後も増加傾向が続く見込みである。一般的に人口流入が続く都市部では、地域への帰属意識の薄い住民の増加、居住地域と職場・学校の分離等の影響により、住民相互のつながりが希薄化してしまう。そのような都市部では、地域コミュニティの活性化が必要である。

## スポーツのチカラ

スポーツ基本法の前文で「スポーツは、人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するものであり、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に寄与する」<sup>2)</sup>と謳われている。それだけでなく、スポーツは青少年の健全育成、心身の健康の保持増進、誇り・喜び・夢・感動・生きがいの提供、経済の活性化において大きな力を発揮する。

**「スポーツのチカラ」で  
地域のさまざまな課題解決が可能！**

# 世田谷区民のスポーツ

## 世田谷区民のスポーツの現状<sup>3)</sup>

- ・この1年間に行ったスポーツや運動の回数→「週に1回以上」が半数未満(図2)
- ・スポーツや運動を一緒にする相手→半数以上が「ひとり」でスポーツを行っている(図3)  
特に50歳以上の男性では約7割が、ひとりでスポーツを行っている
- ・この1年間に行ったスポーツや運動→「ウォーキング(散歩)」が7割(表1)
- ・この1年間にスポーツや運動を行わなかった理由→「時間がない」「年をとった」「機会がない」(表2)
- ・区のスポーツ振興施策に対する要望→半数近くが「スポーツ施設(場)の拡充」を求めている(図4)

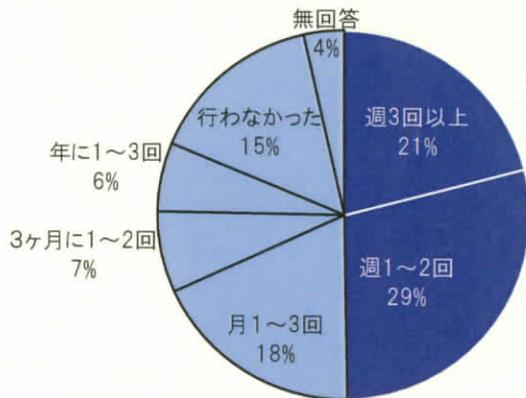


図2 運動・スポーツ実施状況

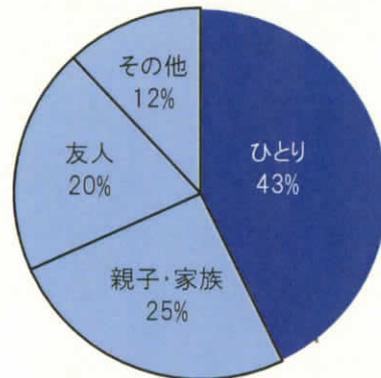


図3 運動・スポーツを一緒に行う相手

表1 この1年間に行った運動・スポーツ

※上位10種目を抜粋

種目	回答率(%)
1 ウォーキング(散歩を含む)	70.3
2 体操(ラジオ体操、健康体操など)	18.8
3 水泳(水中ウォーキング、アクアビクスを含む)	17.5
4 ジョギング・マラソン	15.6
5 サイクリング	14.8

種目	回答率(%)
6 トレーニング(器具を使うもの)	14.5
7 ゴルフ	13.5
8 ヨガ・気功・太極拳	13.0
9 ハイキング・登山	12.8
10 テニス	6.4

表2 運動・スポーツを行わなかった理由

理由	回答率(%)
仕事・家事・育児が忙しくて時間がないから	39.1
年をとったから	23.5
機会がないから	22.9
運動・スポーツが好きではないから	13.7
体が弱いから	12.8

理由	回答率(%)
お金がかかるから	11.2
仲間がいないから	6.7
場所や施設がないから	5.3
指導者がいないから	0.8
特に理由はない	9.8

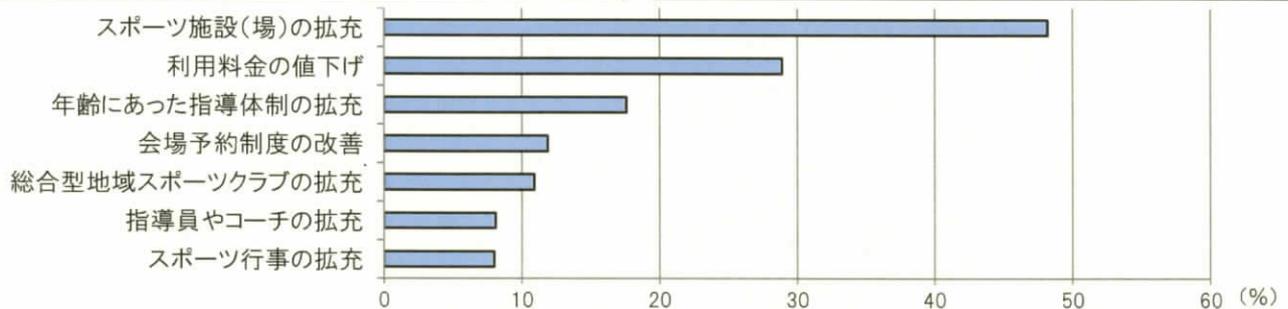


図4 区のスポーツ振興施策に対する要望

## 世田谷区民のスポーツの課題

世田谷区民の週1回スポーツ実施率は49.7%と、「世田谷区スポーツ推進計画」<sup>4)</sup>に示された目標(65%)を大きく下回っている。また、定期的なスポーツ実施者においても、ウォーキング等の活動を1人で行う人が多く、スポーツを通じた区民同士の交流の機会は限られている。

この1年間に運動・スポーツを行わなかった区民は、自身の身体的条件のほか、時間・機会・お金・仲間・場所・指導者などの環境条件が整わなかったことを理由として挙げている。また、区のスポーツ施策に対する要望としては、スポーツ施設の拡充を求める声が多い。つまり、区民のスポーツ実施率向上のためには、これらの条件を整えることが必要なのである。しかしながら、すでに世田谷区には各種公共スポーツ施設、学校開放制度、施設の予約制度、指導者の養成・紹介制度などが整っており、これ以上の充実は容易ではない。

したがって、スポーツの推進による地域課題の解決を図るために、現在の環境を十分に活用した「スポーツの楽しみ方」を提案していきたい。

# スポーツの楽しみ方

## スポーツの楽しみ方の多様化

[スポーツ立国戦略]<sup>5)</sup>

スポーツを実際に「する人」だけではなく、トップレベルの競技大会やプロスポーツの観戦など、スポーツを「観る人」、そして指導者やスポーツボランティアといったスポーツを「支える(育てる)人」に着目し、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境をハード(施設等)、ソフト(プログラム・指導者等)の両面から整備する

[世田谷区スポーツビジョン]<sup>6)</sup>

区民が実際にスポーツを「する」だけでなく、トップアスリートの競技を「観る」ことによってスポーツの興奮や感動を共有したり、ボランティア活動で「支える」といった多様な関わり方に応じた、スポーツに触れる機会を拡大していきます

**生涯スポーツの時代を迎え、スポーツの楽しみ方は多様化している！**

### する

身体を動かしてスポーツをする

- ・クラブ、サークル
- ・大会、競技会、運動会

### 観る

トップアスリートの競技を観る

- ・テレビ観戦
- ・スタジアム観戦

### 支える

人々のスポーツ実施を支える

- ・スポーツ指導
- ・運営ボランティア

このうち「観るスポーツ」には、特に次のようなメリットがある

## 観るスポーツのメリット

- ・年齢や体力にかかわらずだれでも楽しめる
- ・会話をしながら楽しめる
- ・気軽に行ける
- ・事故やケガの心配がいない
- ・特別な場所が必要ない
- ・用具代がかからない
- ・指導者がいなくても楽しめる
- ・大勢の人が一緒に楽しめる
- ・着替える必要がない

# 観るスポーツはまちをつなげる

パスをつなぐ、タスキをつなぐ、バトンをつなぐ、技をつなぐ…。トップレベルのプレーヤーたちは、さまざまなものを鮮やかにつなぎ、スポーツの高みを目指している。一方、そんな選手たちのハイレベルなスポーツは、さまざまなものをつなげてくれる。

## 心をつなげる

肩を組んで応援する、ハイタッチでゴールを祝う、勝利を喜んで抱き合う、敗戦の悲しみをなぐさめ合う…観るスポーツは身体の触れ合いを生み、喜怒哀楽を共有することで、観る者同士の心と心をつなげる。

## 地域をつなげる

高校野球やJリーグなど、地元チームの話題は地域を一つにつなげる。1964年の東京オリンピックでは、1台のカラーテレビの前に近所の住民たちが集まった。2020年には大画面の前で、再び近所の住民たちがつながる。

## 世代をつなげる

### 子ども

すじ書きのないドラマは、子どもたちをバーチャルな世界から切り離す。好きな選手を応援したり、興奮しながら選手の真似をし合うことは、子ども同士のつながりを生み出す。



### 世代間交流

共通の話題、同じ目標、同じ感情の共有は、性別や世代を超えて人と人をつなげる。

### 高齢者

応援する対象の存在は、生きがいを生み、会話を生み出す。昔の記憶を披露し合い、ウンチクやドラマを語り出すことで、高齢者同士のつながりが生まれる。



## 人とスポーツをつなげる

観るスポーツは、身体を動かすことが困難な人や苦手な人、時間・仲間・指導者・場所がない等の理由でスポーツが行えない人たちにスポーツに親しむ機会を提供し、人とスポーツをつなげる。

# 観るスポーツが世田谷区をつなげる！

## 提 案

# 大学を拠点としたパブリックビューイングの実施

以上の内容を踏まえ、世田谷区において地域と行政と大学の連携を促進する事業として、私たちは世田谷区内の大学を拠点としたパブリックビューイング(PV)を提案する。

## パブリックビューイングとは

大型の映像装置を用いたスポーツ観戦イベントのことである。白黒テレビが各家庭に普及する前の1950年代、野球・プロレス・ボクシングなどを観るために街頭テレビに集まった人だかりが、パブリックビューイングの起源とも言える。テレビ普及後は家庭内でのテレビ観戦が定着したが、2002年のFIFAワールドカップ日韓大会を契機として、再び一つの画面の前に多くの人が集まるようになった。

2014年に開催されたFIFAワールドカップブラジル大会では、スタジアムに数万人を集めて行われたものから数名が会議室で観戦したものまで、大小さまざまなPVが全国各地で行われた。

## パブリックビューイング(PV)のメリット

身近な場所



スタジアムの臨場感



人と人のつながり



PV

## 大学を拠点とするメリット

- ・地域コミュニティの中核的存在となっている
- ・社会貢献に積極的である
- ・テレビやスクリーンなどの機器が充実している
- ・大人数を収容可能な施設がある
- ・広域避難場所である大学の所在地と避難経路の確認ができる
- ・人的資源（学生）が豊富である

## 目指すまちの姿

- ・スポーツを身近に感じられるまち
- ・世代を超えたつながりがあるまち
- ・生きがいを持ち、楽しく元気に暮らせるまち
- ・団結して災害を乗り越えられるまち
- ・会話がはずむまち



# 地域と行政と大学をつなげるパブリックビューイング (本提案の全体像)

## 世田谷区の現状と課題

- ・ 少子高齢化
- ・ 地域コミュニティの衰退
- ・ スポーツ実施率の低さ
- ・ 1人でのスポーツ実施
- ・ スポーツを楽しむ場所の不足

## 目指すまちの姿

- ・ スポーツを身近に感じられるまち
- ・ 世代を超えたつながりがあるまち
- ・ 生きがいを持ち、楽しく元気に暮らせるまち
- ・ 団結して災害を乗り越えられるまち
- ・ 会話がはずむまち



地域

- ・ 区民のQOL※の向上
  - ・ 豊かなスポーツライフの提供
- ※QOLとは…クオリティ・オブ・ライフの略。人がどれだけ人間らしい生活を送り、人生に幸福を見出しているかという概念。

- ・ スポーツを楽しむ機会の提供
- ・ 地域社会への貢献
- ・ 広域避難場所へのルート確認



# パブリックビューイング

身近な場所＋スタジアムの臨場感＋人と人とのつながり

- ・ 人的サポート (大学生スタッフ)
- ・ 物的サポート (施設、設備の提供)

行政<sup>7)</sup>

協力

大学

- ・ 活動の提案
- ・ 広報サポート (区報、ホームページ、パンフレット等)

**パブリックビューイングは  
地域と行政と大学の連携を促進する！**

# パブリックビューイング実施の流れ

## 実施前

### ○立ち上げ:

日時・場所・対象とするスポーツイベント・実施内容等の計画を練る。観戦イベントの例として、オリンピック・ワールドカップ・高校野球・世界選手権等が考えられる。観戦イベントに合わせた企画やお楽しみ企画等も計画すると盛り上がる。

### ○スタッフ:

ボランティアスタッフを募る。大学生・大学の教職員・地域住民が協力し合える体制が理想。

### ○会場:

来場者やスタッフ・警備の人数等を想定して会場を選ぶ。大学には大型テレビやスクリーンが設置された講堂・教室が数多くあるので、イベントの規模に合わせて会場を用意する。

### ○広報:

【ポスター・チラシ】商店街へのポスター掲示、地域でのチラシ配布、公共施設へのリーフレットの設置

【インターネット】区HP、大学HP、各種SNSの活用

【広報誌】区報、パンフレット、スポーツ情報ガイドへの掲載

### ○会場準備

試合の期日が迫ってきたら会場の準備を行う。会場設営・誘導板の設置・注意事項の掲示・機材の確認・配布物の確認等が必要。



## 実施中

### ○試合前

受付後、配布物を渡す。

フェイスシールやスティックバルーン等の応援グッズを配布すると応援が盛り上がる。また、実施内容の改善のためにアンケートを配布する。試合前に企画があれば実施する。初めて観る人から競技経験者まで、観戦者が一体となる企画を実施し、会場雰囲気をよくする。

### ○試合中

試合中はスタッフが会場内を見回る。気分が悪い人や困った人がいないかを確認し、必要があれば医務室へ案内する。会場が一つにまとまり、気持ちを込めて応援できるように環境を整える。

### ○試合後

アンケートを回収した後、会場の清掃、撤収を行う。

## 実施後

### ○コミュニケーション

イベントや試合について語り合い、次の試合を楽しみにする。地域住民同士のつながり、地域住民と大学生のつながり等、各地に交流の輪が広がることを期待される。

### ○地域コミュニティの活性化

地域住民同士のつながりが生まれ、地域コミュニティが活性化する。



# 日本体育大学における パブリックビューイングの実施

## 目的

大学を拠点としたパブリックビューイングの実施が、参加者間に世代を超えた繋がりを生み出し、地域コミュニティの活性化に貢献することを明らかにする。

## 方法

### ①パブリックビューイングの実施

大会名：2014FIFA ワールドカップ ブラジル大会

日時と実施した試合：2014年6月20日（金）7：00～9：00、日本対ギリシャ（0対0）

2014年6月25日（水）5：00～7：00、日本対コロンビア（1対4）

場所：日本体育大学東京世田谷キャンパス 記念講堂（600人収容）

スクリーンの大きさ：6.4m×4.8m

### ②参加者に対する質問紙調査

参加者に対し質問紙調査を実施し、定期的に実施しているスポーツの有無、スタジアムでの試合観戦やパブリックビューイングへの参加経験、今後の参加意向等を調査した。

## 内容

### ①立ち上げ

2014FIFA ワールドカップ ブラジル大会を対象としたパブリックビューイングの実施を発案

日本代表ユニフォームのコンセプトに合わせた円陣プログラムを企画

試合当日に誕生日を迎える人に向けたサプライズ企画を用意

来場者への応援グッズ（スティックバルーン、フェイスシール）配布を決定

### ②スタッフの募集

日本体育大学スポーツ経営管理学ゼミ7人で企画

大学教員、大学職員の協力者を確保

### ③会場の確保

日本体育大学記念講堂（600人収容）を確保

所轄警察署に、大人数が集まるイベントの実施について届出

### ④広報

日本体育大学のHP・Facebookで告知、Twitterで拡散

地域住民にチラシを配布、学内でポスターを掲示

### ⑤会場準備

会場設営。受付やフェイスシールをつける場所を確保

会場までの案内掲示板の設置、映像・音楽機器の準備



## ⑥試合前

- 受付、グッズ・アンケートを配布
- 会場内の座席誘導
- 開催の挨拶と会場使用上の注意事項の確認
- 当日が誕生日の人を会場内全員でお祝い
- 会場内の全員で円陣を組み記念撮影

## ⑦試合中

- 試合観戦、応援グッズを用いての応援
- ハーフタイム時に観戦者へのインタビュー。



## 結果

### ①来場者

	日本 vs ギリシャ	日本 vs コロンビア
日本体育大学 学生、教職員	334名	297名
地域住民（世田谷区内）	46名	54名
地域住民（世田谷区外）	79名	59名
合計	459名	410名

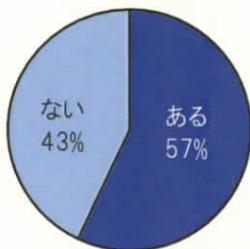


図5 週1回以上実施しているスポーツ

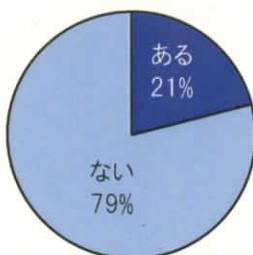


図6 4年以内のサッカー日本代表戦観戦経験

### 来場者の特徴

早朝の試合にも関わらず、ギリシャ戦には459名、コロンビア戦には410名の観戦者が集まった。

アンケート結果から、定期的なスポーツ実施者だけでなく、日頃スポーツを行っていない人も多数集まった事が明らかになった。43%の人が、週1回以上定期的にスポーツを実施していないにも関わらず、観戦に訪れたのである。

また、過去4年以内にサッカー日本代表の試合をスタジアムで観戦したことがない人が79%と多かった。スタジアムでのスポーツ観戦経験がない人でも、パブリックビューイングなら近場で手軽に観に行けることが明らかとなった。身近な場所でスタジアムの臨場感を味わえるというパブリックビューイングの利点が活かされたと言える。

### 満足度

アンケートの結果、93%もの参加者が本事業に満足したと回答した。日本代表はそれぞれ0-0（ギリシャ戦）、1-4（コロンビア戦）という結果であったにもかかわらず、これほど多くの人々が事業に満足したということは、身近な場所でスタジアムの臨場感を感じられ、人と人の繋がりを得られるというパブリックビューイングのメリットを参加者が享受できたためだと考えられる。

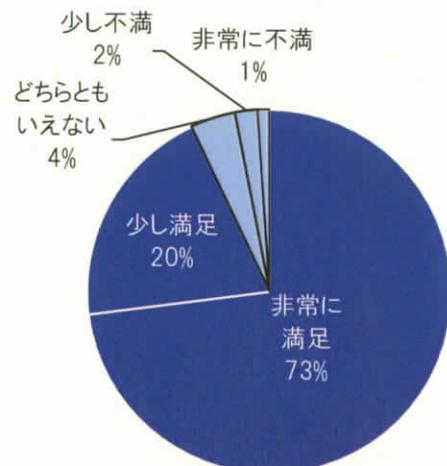


図7 本事業の満足度

## 来場者の声(一部抜粋)

- ・また来たいです。(男性・専門学生・10代)
- ・楽しかった。(女性・大学2年・20代)
- ・是非次回からもお願いしたい。(女性・その他・50代)
- ・今後もいろんなスポーツのイベントの企画を希望します。(女性・その他・30代)

### ②効果

#### 一丸

『円陣』が今回の日本代表ユニフォームのコンセプトになっていることから、本イベントでは試合前に円陣を組む企画を立てた。その結果、会場に集まった全員が肩を組み、一丸となって試合に臨む気持ちを高めた。



#### 一体

会場には、学生・教職員・地域住民が集まり、老若男女を問わず一体となり、日本代表の勝利を願って応援した。

#### 交流

ゴールシーンでは、周囲の人達とハイタッチなどで喜びを分かち合った。



#### 共有

試合に負けた瞬間、会場内は落胆に包まれ、肩を落としたり、頭を抱えるなどして悔しい気持ちを全員で共有した。

## まとめ

本実験の結果、大学を拠点としたパブリックビューイングの実施により、大学生や地域住民などの参加者が非日常的な時間と空間を共有するとともに喜怒哀楽を共有することで、世代を超えた繋がりが生まれることが明らかになった。このような事業を区内で継続的に実施することは、地域コミュニティの活性化につながるものと期待できる。

## 注記および引用・参考文献

- 1) 世田谷区 (1964～2013) 世田谷区統計書、世田谷区 (2014) 世田谷区将来人口の推計
- 2) スポーツ基本法 (2011)
- 3) 世田谷区 (2013) 世田谷区民意識調査 2013
- 4) 世田谷区 (2014) 世田谷区スポーツ推進計画
- 5) 文部科学省 (2010) スポーツ立国戦略
- 6) 公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団 (2014) 世田谷区スポーツビジョン
- 7) 公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団へのインタビュー調査により行政の役割を確認した

